

2025年1月26日 河内地区有志教会講壇交換礼拝メッセージ

「君の目的は。」

池田優希牧師(八尾教会)

聖書 ヨハネによる福音書 5章1-9節

いよいよ新しい年を迎えて1月が終わろうとしています。新しい年はどんな年にしたいかなあ、と考えます。今年の目標、みなさんは何か決められましたか？

日々の目標、何に向かって生きていこうか。そう考える時に、やっぱり聖書の教えに帰りたいと思います。ということで、今日の聖書箇所を選んでみました。ではさっそく読んでみましょう。

ヨハネ 5章 1節「その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに上られた」。エルサレムは城壁都市でありましたから、エルサレムに入るにはたくさんの門がありました。今日の箇所では、羊の門と書かれていますので、羊が通る門ということです。ほかにも色々あったようで、ライオンの門、黄金の門、うんちの門など。

2節「エルサレムには羊の門の傍らに、ヘブライ語で「ベトザタ」と呼ばれる池があり、そこには五つの回廊があった」。ベトザタはわりと大きな池で、周りに回廊(アーケード、屋根)が池の周りに5つあったそうですね。3節「回廊には、病気の人、目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人などが大勢横たわっていた」とあります。なぜみんなここに集まっていたのでしょうか。聖書を御覧ください。3節の次、4節がなく5節に飛んでいます。3節の最後には、~~の~~のしるしがありますね。聖書は古い書物ですから、時々破れたり欠けたりしています。それをなんとかつなぎ合わせたものがこの今読んでいる聖書です。そのため、この箇所もどうやら欠けてしまっていたそうなんです。それで、この欠けをなんとか発見し補った文章が、ヨハネ福音書の最後に載っています。

異本による 4節「彼らは水の動くのを待っていたのである。それは、時々、主の御使がこの池に降りてきて水を動かすことがあるが、水が動いた時まっ先にはいる者は、どんな病気にかかっているか、いやされたからである。」

ということで、どうやらベトザタの池は、病を癒やす力があるとされており、そのために病の人たちが大勢集まっていたということだったようです。ではここで問題

です。下から水が湧き出て、それを貯めて、みんなで入る施設を何というでしょうか。温泉ですね。現代でも、温泉には病を癒やす効果があるとされており、温泉は多くの人利用しますよね。

というわけで、現代を生きる私達と同じ感覚で、当時のベトザタの池にも、効能を求めて大勢集まっていたわけですね。

ベトザタの池は、時々水が動く。ということは、時々ボコッと湧き出る、間欠泉だったわけです。そして湧き出した瞬間の一番ピュアな、純粋な水には癒やしの効果があると信じられていた。確かに、人々が浸かり終えた水よりも、一番風呂、新しい水の方が効果がある気がするのわかります。だから、このベトザタに集まってきた人たちは、回廊（アーケード）の下に待機していて、水が動いた、ボコッと湧き出した瞬間を狙っていたわけなんですね。

5 節「その中に、38 年もそこに横たわっている人がいた」。38 年ってすごい長いですね。そんな長年病気で苦しんでいる人に、イエスキリストは声をかけます。

6 節「イエスは、その人が横たわっているのを見、また、もう長い間病気であるのを知って、『良くなりたいか』と言われた」。ちょっと待ってください。長年病気に、しかも初対面ですよ。「良くなりたいか」という質問、なんだか失礼じゃない…？

まさかのイエス・キリスト、『不適切』発言……??

そりゃ当たり前じゃないですか、よくなりたからこうやってこのベトザタの池に来ているんですよ。

この 38 年の病気の人、この質問に対して何と答えているのでしょうか。

7 節「病人は答えた。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです」。他の人が先に降りていくねん。いれてくれる友達もいないし…。

良くなりたかという質問に対する答えは、「はい」か「いいえ」のどちらかです。「いいえ」ではないでしょうね。もちろん、「はい」です。

でも、この 38 年の病気の方は、質問に対して全く違う答えを言うんですね。イエスキリストの問いに答えていない。「他の人が先に行くし」「誰も手伝ってくれないし」。そう、言い訳ばかり…

38 年もそこにいたら、もしかしたら一回か二回かそれ以上か、池に入れたのかもしれない、それでももしかしたら効果があって良くなっていたのかもしれない

んね、それは憶測でしかありませんが。いずれにせよ、この人は、はじめは本当に良くなりたくてここにやってきた。けれどもだんだん、よくなるのが目的だったのに、いつの間にか一番に池に入ることが目的になってしまっていた。この人はいつしか、人生の目的がわからなくなってしまっていたのかもしれない。

8 節「イエスは言われた。『起きて、床を担いで歩きなさい』」。イエスキリストはこう言います。「四の五の言っていないで、自分の足で歩きな！ あなたの目的は一番に池に入ることじゃないでしょう。良くなるのが目的だったでしょう？」

昨年的一年を振り返ると、もちろん辛いこと、大変なこともたくさんあった。でもその中で、また同時に神さまからたくさんの恵みをいただいた、そして今こうして、新しい一年が始まるこの日に命が与えられています。それはきっと、神さまがわたしたちひとりひとりに使命があるからでしょう。その与えられている使命、目的を、もう一度問い直す、そんな一年を送りたいと思います。『良くなりたいか』というイエス・キリストの言葉、それはつまり、本来の目的を見失っていないかというメッセージ。この言葉をいつも自分事として心に留めて生きていきたいと思います。

祈り

神さま、わたしたちはいつも目先のことばかりに気を取られ、そして自分のことばかりを考えて生きてしまっています。あなたからたくさんの恵みをいただいているのに、それに気づかず、感謝をも忘れてしまっていました。

そんなわたしたちを、あなたは前の一年、毎日そばで守って、恵みを与え続けてくださっていました。

今日わたしたちはそのことを思い出しました。どうか新しい一年を迎えた今日から、あなたからいただく恵みのひとつひとつを数えて生きていくことができますように。そしてあなたから与えられている使命に燃え、神の国を実現していくことができますように。隣の人と支え合って、励まし合って生きていくことができますように。主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン